

第2回ふくまちエリア価値創造フォーラム

【日時】 2023年（令和5年）11月16日（木）14：00～16：00
【場所】 iti SETOUCHI（エフピコRiM1階）内 コワーキングスペースtovio
【テーマ】 地域組織とエリアマネジメント ～QRUWA戦略の取組～
【参加者】 約70人（オンライン参加を含む）
【内容】 講師レクチャー・質疑応答



講師レクチャー

1 QURUWAと、主要回遊動線

- QURUWAとは、駅、市役所、岡崎城などを含んだ約157haのエリアの名称。歴史、自然、地形、ひと・まちといった豊富な地域経済資源があること、エリア内の公共空間が50%以上、岡崎城の外堀（別名：総曲輪（そうぐるわ））のラインとエリアが重なっていることが特徴。
- 質の高い公共投資をした施設と既存の集客施設を結び、一筆書きの主要回遊動線を設定した。動線が「Q」の字に見えることや総曲輪の一部と重なることから「QRUWA」と命名。
- 一筆書きの主要回遊動線を設定することで、公民の投資エリアやウォークアブルエリアの見える化、官民がトライ（投資）するエリアのよりどころを明確化することができる。
- 主要回遊動線設定のポイントは、地域資源、既存の集客施設、公民の遊休不動産、バリアフリーな動線、既にウォークアブルなストリートやエリア、都市型コンテンツがあるエリア、地域の民間事業者や自治会の顔が見えるストリートやエリアを結ぶこと。
- QURUWA戦略の目的は、市全体とQRUWAエリアの両方の都市経営課題を解決し、持続可能な都市経営をめざすこと。
- 豊富な公共空間を活用して、パブリックマインドを持つ民間事業者を引き込む公民連携プロジェクト（QRUWAプロジェクト）を実施することで、その回遊を実現させ、波及効果としてまちの活性化を図る。
- 仕掛けのベースは、大きなリノベーションと小さなリノベーションを組み合わせたリノベーションまちづくりの推進。

2 自治の再生へ ネオ自治会「QRUWA7町・広域連合」

- 行政にとっての本質的な課題解決として、自治再生（コミュニティ再生）に取り組む必要がある。
- 出店希望者が頭打ち、使える空き家が出てこない状況の中、盆踊りの復活をきっかけに、自治会の連合体であるネオ自治会「QRUWA7町・広域連合」（7町連合）が自治会主体で立ち上がった。
- 行政ではなく自治会が会議を主催することで、オープンかつフラットな場づくりができ、多様なヒトが集まり、プロジェクトやコミュニティがどんどん拡大している。
- 自治会との連携で、スピード感を持った合意形成や顔の見える関係性、ダイレクトな空き家情報などがQRUWA戦略にもたらされた。
- キーマンを探すことが大事。7町連合には、自営業で昼間に動くことができ、不動産情報が集まりやすい駐車場事業を展開している方がいる。また、青年期に青年会議所や商工会議所青年部に所属していたため、会議を進行するスキルがあり、経済界とのパイプ役にもなっている。さらに、自治会では長い期間継続して副自治会長を担当している。



講師/中川 健太さん
岡崎市役所
まちづくり推進課
QRUWA戦略係

【次世代の会】

- 自治会内外の次世代を担う30～40代で (次頁に続く)

構成された「次世代の会」が発足し、実動のプロジェクトを動かしたり、プロジェクトの種を作っている。

- コミュニティ形成の1つの手段として、自治会が主体となって関係団体と共に夏祭りを自主財源で開催している。
- 自治会プラットフォームならではの2つの機能
 - (1) 縦（世代）をつなぐ：コミュニケーションを相互に容易に取れる年齢は大体±10歳。次世代の会のメンバーがまちの長老世代（65～75歳）と次々世代（10代～30代）の両方とコミュニケーションを取ることで縦がつながる。
 - (2) 横（人／組織）をつなぐ：自治会だから官民両方の人や組織をつなぐことができる。

【QRUWA事業リノベーションスクール】

- 主に市内の企業を対象にしたリノベーションスクールを7町連合と一緒に開催。目的は新しいライフスタイルづくりと、企業と地域の課題を同時解決すること。
- QURUWAで行う理由は、自治会による良好なコミュニティや質の高い公共空間などが整備されており、イノベーションを生みやすい環境があるから。
- 企業の視野をまちなかへ広げる。行政、自治会、企業が連携して、希少なコンテンツが多様な分野で展開され、それを求める人や発信できる市民を増やすことをめざす。

3 講師個人のこれまでの動きと行政職員としてのまちとの関わり方

- 行政は民間になれるが、民間は行政になれない。
- 公（市役所）と民（次世代の会、NPO法人、エリアマネジメント会社）の二足のわらじで活動。
- 動機は、当事者として仲間と一緒にまちの未来を見続けたいという思いと自分の欲しいコンテンツづくりのため。
- まちとの関わり方は、無理せず楽しむことが大事。自分のライフスタイルとまちをかけ合わせ、まちを自分ごとにする。私の好き・やりたいことが誰かの楽しいになる。
- これから起こす1mmアクション。まずは、今どこかで

やっていることを、まちで狙いを持ってやってみる。重要なのは、小さなアクションをスピード感をもって起こすこと。トライ＆エラーで軌道修正しながらアクションをする。

- 民間事業者の方は、肌の合う行政職員を見つけてチームを組んで、まちの未来をアップデートし、アクションを起こしてほしい。

4 10年間動き続けてきて感じる変化

- 籠田公園が整備されたことで、周辺にオリジナルコンテンツが増えて、まちの客層が変わり、多様な世代が集まり始めた。周辺の道路空間も活用され始めた。
- 指標では、QRUWA地区内の来街者数は20代～60代で増加、公共空間の民間活用日数は約1400%アップ、出店数は5年連続で年平均10店舗、路線価は5.5%上昇、税収（固定資産税＋都市計画税）は10年の合計で約6.2億円上昇しており、良い成果が出ている。

質疑応答

- 国道で分断されたエリアの回遊性を高める方法は？
→岡崎市でも同じ課題があり、国道1号に公園（緑道）を横断させようとしている。これまでは警察へのアプローチを行政からしていたが、今後は自治会がしていく。
- 人材のを見つけ方や積極的に関わってもらうためには？
→まちでネットワークを作り、さらに買い支えることでお店を応援していく。このようにまちにダイブをする中で人材を見つける。見つかるときは数珠つなぎでつながっていく。そこに辿り着ける可能性が高まるように、いかに打席に立てる回数を増やすか。
- もともと自治会と行政の良い関係性のベースがあった？パブリックマインドを持ってる人が多かった？
→もともとは良い関係性があるとは言えなかったが、自治会と行政をつなぐきっかけを作ってくれたキーマンがいた。また、QRUWA地区には旦那衆的な感覚を持った長老が多い。その方々とコミュニケーションを取ることが大事。例えば、出店するときには事業者と自治会長をつなぐ取組を丁寧に行ってきた。